

令和3年度 第1回徳島県文化創造審議会（書面開催）

令和3年度第1回徳島県文化創造審議会につきましては、新型コロナ感染拡大の防止の観点から書面開催へと変更いたしました。

委員の皆様からいただきましたご意見、県からの回答は、次のとおりです。

委員の皆様からのご意見

1. 「資料2」について

令和元年度は計画が概ね順調に実施されたが、令和2年度は新型コロナ感染症のため、中止・延期になった事業が多かった。やむを得ないことである。

「資料3」について

長らく停滞していた「徳島文化芸術ホール」の建設計画が進みそうであることは喜ばしく、期待する。

2. 「資料2」について

新型コロナウイルス感染症の影響により、「とくしま夏の音楽祭」「文化アドバイザー派遣」「中学生ワークショップ」などが中止を余儀なくされる一方で、オンラインを活用した「俳句教室や書道教室」「阿波踊り教室・公演の世界への発信」などでは、一定の成果（実績）を挙げられている。

ウィズコロナや今後のアフターコロナを見据えながら、徳島県文化芸術推進基本計画に基づく各種施策を着実に実施していくためには、各種事業・イベントのオンライン化やハイブリッド化（対面方式とオンライン方式の併用）を行う必要がある。そのための環境整備を早急に進めるべきであると思う。

「資料3」について

「今行うべき施策」として「オンライン化に向けた環境整備（ハード・ソフト、県民への啓発も含め）」についても、早急に行っていただきたい。

3. コロナ禍における芸術・文化活動を中止のみではなく、どのように対策をして、実施に向けて取り組んでいくのか知恵を出し合いたい。

新ホールに向けての整備において、旧徳島ホールも一体化した計画を考えていただきたい。

4. 「資料2」について

「文化芸術推進基本計画」の進捗状況について、令和2年・3年は新型コロナ禍のために、計画した事業が中止または縮小して実施しなければならず、その対応に追われた関係者の苦労は如何ばかりかと労いたい。

私に関わる埋蔵文化財調査及び展示（レキシル徳島）をはじめ多くの事業において、厳しいコロナ禍でも県民へ向けて新たな文化を発信し続けていることは評価できる。

とりわけ東京五輪開会式で、阿波踊りの原型とされる「津田の盆踊り」の哀愁を帯びた歌声が披露されたことは、エンブレムに採用された藍（日本遺産）とともに阿波文化を世界に発信する良い機会となった。このような機会を活かし未来に繋ぐことが大事である。伝統文化を継承しながら、Society5.0の時代にふさわしい文化の創造と発信が求められるだろう。

「資料3」について

県民のみならず日本・世界からアーティストを招き発信する文化施設が脆弱であった。徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業に期待するところは大きい。

5. 新型コロナウイルス感染症の終息が見えないまま1年以上が経過し、令和2年度の文化活動においても、当初計画されていた事業の多くを中止にせざるを得なかったことは残念であり、計画通りの実績を残せなかったことは致し方ないと思う。

そのような中においても、SNSを利用した徳島PRやオンラインによるイベントの開催など、コロナ禍における文化発信についてご努力されていると感じた。徳島には阿波踊りを始め、人形浄瑠璃、藍染、陶芸、木工など多くの伝統文化コンテンツに恵まれながらも、県民にとっては身近過ぎるゆえに、その素晴らしさが見過ごされているのではないかと感じる。この素晴らしい徳島の文化を、SNSのみならず地元放送局のテレビCM等で発信するなど、多くの県民の目に届けていただき、まずは県民が地元の文化に誇りを持つことで、それぞれが自信を持って国内外へ発信していけるよう徳島文化のブランディングを進めていただきたいと思う。

「資料2」について

(5) 未知なる発信！「あわ文化」ブランドの創出

②映像の効果的活用

今後の取組方針の中に「あわ4大モチーフをテーマにした質の高いデジタルコンテンツを国内外に向けて発信する」とあるが、徳島県が制作する映像はいつも大変素晴らしいので、県民の目にも届くように発信していただけたらと思う。

6. 「資料2」について

制作された動画はどこで活用されているのか。WEB等で公開されているのか。

「資料3」について

今できる施策について

感染症対策として文化施設等へのハード面の整備は今できる施策としてなされているが、各種文化・芸術に関わる団体への支援としては何かあるのか。(オンラインへの対応や、活動を実施するためのガイドラインの策定など)

ICTを活用するための知識・技術が必要となり、通常では賄えない費用や整備も必要と思われる。また、文化団体、組織に関わる人のICTスキルも必要となる。ウィズコロナの対策として、このような部分の支援も必要ではないか。

徳島文化芸術ホールについて

建設予定地は埋蔵文化財の調査中であるため、文化財保護審議会とも協議し、慎重に行ってもらいたい。

7. 「資料2」について

(2) 未知なる開花！根付き、育てる「人材・才能」

③文化活動への若者参加の促進

中文祭における「ふれあいワークショップ」だが、本年度においても感染症拡大防止のため中止となった。第7回徳島県中学校総合文化祭は、現在実施の方向で検討中だが、感染症の状況に応じて全部又は一部を中止する可能性がある。

「資料3」について

感染症の拡大により、昨年度からたくさんの文化活動ができなくなっている。今後もしばらく同様の状況が続くと考えると、「今できる施策を実施」にある「文化施設への支援」のように、ウィズコロナの状況で文化活動を進められる環境の整備が大切になると考える。

8. 「資料2」について

(3) 未知なる創生！文化の力で「まちづくり」

①地域づくり・地域団体への支援

あわ文化創造支援費補助金について

事業数ベースでは目標を大幅に上回っていることが評価できる。事業も軌道に乗り始めるかと思うので、件数よりも中身にこだわった質の高いものに今後は切り替えていく必要があると考える。

(5) 未知なる発信！「あわ文化」ブランドの創出

①戦略的な情報発信

観光情報アクセス件数について

R2年度アクセス件数の当初目標を下回っている。観光することができない一方で、人々のネットに触れる時間は増加しており、コロナ後の最初の旅行先として徳島県を選んでくれる人が増えるような施策が必要とされるのではないかと。また、インフラ面で県内の公共交通機関の移動に関する情報が他県と比べて不足していることは観光客に不親切であるので、もう少しバスの運行体制などをわかりやすく、さまざまな検索エンジンに反映されるようにしたほうが良い。

「資料3」について

新ホール整備について

現在検討されている新ホール予定地に関する議論には言及しないものとして、現在予定地はスペースにかなり限りがあることは明白である。1800席のホールを作ることによってスペースが圧迫され、舞台装置が十分でなくなると、使われないホールになってしまうことも懸念される。また、車社会である徳島県でほとんど駐車場を設けることのできないホールは無理があるのではないかと。

周辺に駐車場を整備できるような空き地も少なく、周辺の混雑増大に繋がることも懸念される。パークアンド(トレイン)ライドなどの仕組みを作ることが先決であると考えられる。

9. 「資料2」について

(1) 未知なる舞台！みんなで築く「あわ文化」

(2) 未知なる開花！根付き、育てる「人材・才能」

全体的に素晴らしい企画であったものの、コロナ感染拡大が止まらず、やむなく開催ができなかったことについては残念でならない。

(3) 未知なる創生！文化の力で「まちづくり」

②地域文化を通じた郷土愛・地域愛の醸成

よく考えられて企画されたことに敬意を表す。ただコロナ禍の間は仕方がないが、文学書道館などの催しに入場された人数がどうなのか、どれだけ伸びているのか、目標に対してどうだったかが問題と思う。

コロナ終息の次には（企画が良いだけに）いかに人を呼び込むかという努力と工夫が必要と思われる。多くの経費をかけているので、入場者を増やすために工夫した内容を発表してほしい。

③「徳島ファンの活用」

素晴らしい企画である。ネット情報以外にも県外の親戚友人に紹介できるパンフなどがあると嬉しい。

「資料3」について

「徳島文化芸術ホール」

駅ができることに賛否あるが、私はいい案だと思う。車社会からJRの利用者が増えることを願うからである。

「その他」

県立博物館のリニューアルは、4大モチーフを織り込んだ仕様と展示に感動した。

10. コロナウイルス拡大の為、いろいろな会が中止又は延期となり大変残念である。

また、その関係者の皆様のご苦勞をお察し申し上げます。

県の取組むさまざまな活動支援に賛成するとともに、徳島の芸術文化の力を結集しての発表や、鑑賞の場である新ホールの一日も早い早期実現を望んでいる。よろしくお願い申し上げます。

11. コロナ禍において、各団体が工夫をこらして事業を実施していることに敬意を表す。

発表の場の激減により各人のモチベーションの低下が懸念される。また、練習場所としていた公民館や、コミセンが使用できなくなったりしていること、後継団体の指導にもかなりの配慮が必要なこと等があり、今後の活動が制約の多いものと考えられる。この状況が改善されたときに支援が必要となると考えている。

芸術文化ホールについては、使い便利のいいものを望む。伝統芸能などに触れやすい環境とソフト面も併せてお考えいただきたい。

12. 「資料2」について

2 (1) 未知なる舞台！みんなで築く「あわ文化」

②県民主役の文化活動

「とくしま夏の音楽祭」について

今はコロナの影響で開催が難しいが、ずっと続いてほしい企画である。プロの方の音を実際に聴くことができたり、直接ご指導をいただいたりするのでとても勉強になる。また、音楽を通して年齢を超えた様々な方と繋がることができ、一緒に演奏できることはとても楽しく、本当に貴重な経験になっている。

(5) 未知なる発信！「あわ文化」ブランドの創出

①戦略的な情報発信

観光情報サイトについて

今はあまり遊びに出られないため、コロナが落ち着いたら行きたい場所をインスタで探す人はたくさんいるはず。徳島のまだまだ知られていない素敵な場所を、この機会に発見してもらえるよう発信することは、とても効果的だと考える。

13. 「資料2」について

(3) 未知なる創生！文化の力で「まちづくり」

①地域づくり・地域団体への支援

「あわ文化の担い手育成事業」「あわ文化の継承・発展事業」の支援を那賀町農村舞台公演関連として内定を頂いているが、新型コロナウイルス感染症拡大に歯止めがかからず、公演は未実施の状況にある。アフターコロナを見据え、公演開催のために人形浄瑠璃の担い手育成は月1回実施している。次年度以降も農村舞台公演関連を継続していくので、ご支援をよろしくお願いいたします。

14. 多くの計画、事業が徳島県内だけで完結しており、もったいないと思う。
県外は当然として、国外も意識し、コロナ収束後に求められる交流人口の増加も視野に入れても良いのではないかと思う。
15. 「資料2」について
新型コロナウィルスの感染拡大で、中止を余儀なくされたイベントなどもあり、ご苦労されたと思うが、オンラインで実施するなど適切な対応をされたと思う。今後とも関係部署とのこまめな情報交換などを行いつつ、取り組みが中断されることのないよう、引き続きお願いしたいところ。
「資料3」について
「今できる施策」
withコロナにおける取り組み姿勢として大変大事なことだと思う。「awaアワーproject」も技術提案書を見せていただいたが、徳島らしさを盛り込んだコンセプトだと思う。今後とも、動画での発信やメディアを通して、県民に進捗状況を発信し続けるなど、建設段階から地域を巻き込む工夫をお願いしたい。
「今後の方向性」
コロナという人類の災禍から得た知見も少なくないはず。(例えば、リモートでも繋がれることができたという経験は、地方にも多くの可能性を教えてくれた)その意味でも「ニューノーマルに対応した新しい文化の創造」は方向性としてふさわしいと思う。
16. 新型コロナの影響で多くの事業が中止・延期、あるいは規模が縮小されたのは仕方のないことと思う。逆にオンラインでの実施、配信などの新しい形が取り入れられ、新しい可能性も広がった。もちろん文化は生(リアル・直接体験)が一番だが、バーチャルの利便性、バーチャルでしかできないこともある。コロナ禍以降もうまく取り入れていけるといいと思う。
意見・提言ではなく県下音楽業界の状況だが、去年はコロナでほとんどの演奏会、イベント、コンクール、講演会が中止になった。今年は感染症対策をして無観客や観客制限などで少しずつ行おうとしていたが、4・5月、8・9月の感染拡大で学校の音楽の授業、部活も一時中止となり、また一般団体は公民館などが使えず現在も活動停止中。まだまだ困難は続いている。
7月25日に全日本合唱コンクール徳島県大会を無観客で開催した(去年は中止)。徹底した感染症対策を講じ、参加者は歌唱時もマスクを着用。マスクをしたままで歌えるのか、声が飛ぶのか・・・など、主催者側は心配していたが、子ども達はそんな心配をものともせず、ハーモニーをホールに響かせた。マスク越しにでもわかる生き生きとした表情に、子ども達がどれだけ発表の場を欲していたのかをひしひしと感じた。リアル、オンライン両方を取り入れ、なんとか発表の場を作っ ていきたいと考えている。
17. 全体的なこととして、新型コロナウィルス感染症の影響で、当初の計画通りに実施ができなかった事業も非常に多いことと思うが、その影響は今後もしばらくは続くように思われる。文化芸術関連事業は今のような社会の状況だからこそ、一層、人々の心のよりどころとして求められる部分があるように思う。できるだけ事業が止まってしまわないこと、少しでも動かしていくことができるような工夫を、検討していただければありがたいと思う。
18. 「資料2」について
(1) 未知なる舞台！みんなで築く「あわ文化」
コロナ禍も1年半を経過し、文化芸術イベントも小規模なものから再開している。現在では徳島市内に適切な音楽ホールがない状況だが、新ホール完成までの間、「生の音楽体験」を代替える場所(文化の森など)を基点に音楽家とのリモート交流会などを模索する必要がある。
(2) 未知なる開花！根付き、育てる「人材・才能」
・歴代の県文化賞・阿波文化創造賞受賞者を招いて講演やシンポジウムを実施し、文化芸術の未来を語り合う機会があれば面白いと思う。
・徳島イノベーションベース(TIB)では起業家育成を目的とした講演会が開催されているが、同様に芸術家の発信場所があっても良いと思う。
木頭出身の藤田恭嗣氏がプロデュースした「未来コンビニ」のコンセプトデザインが世界的コンペで選出されたが、積極的にコンタクトして徳島の魅力展開手段を探るのも良い。
(5) 未知なる発信！「あわ文化」ブランド創出
・県内観光情報を扱う「阿波ナビ」はスマートフォンやタブレットにも対応して

おり、デザインもスッキリまとまった印象で好感が持てる。広く若者にも馴染んでもらう為に是非ともアプリ化してほしい。

- 先日開催された東京五輪においても「津田の盆踊り」が採用されたが、「徳島のPR」として世界中に響いたとは言い難い。前後の流れや演出面の不備が言われており残念だが、アナウンサーの解説がなければ徳島の若い人にも届かなかった。

「資料3」について

「awaアワーproject」

- 新ホール整備を徳島の文化芸術興隆の起爆剤として位置付けるのであれば、「文化芸術とまちづくり」を体現する建造の様子をタイムラプス撮影などして定期的にYouTubeにアップして完成日まで追いかけてみてはどうか。(県庁や市役所などの高所に定点カメラを設置する)
- 先ごろホールのイメージデザインが公表されたが、愛称やロゴマークデザインを公募してほしい。もちろん徳島在住のデザイナーも総動員でかかるよう呼びかけを行うので、切に願うところである。

19. 先日テレビのニュースで徳島文化芸術ホールのデザインを拝見した。これまでの徳島にない、すばらしいデザインのホールだと思うが、デザインに頼りすぎではないだろうか。徳島の周辺の景観になじむのか？大ホールをいっぱいに行けるイベントがどのくらい開催できるのか？採算は？様々な疑問と不安がわいてくる。

魅力的なイベントが開催できれば、全国から徳島に人が来て経済は上向きになるだろう。ただ、全国から人を迎えるには2000席は中途半端、駅ができたとしても徳島県民の移動は基本、車。駐車場は？全体を広くして高齢者や障がい者にどのくらい優しいのか・・・せっかくの新ホールは、徳島の経済を動かす拠点、県民が楽しめる拠点になってほしいと思う。新ホールをどのように使っていくのか？新ホールのデザインを活かした徳島発のイベントを考える必要性を感じている。

委員の皆様のご意見を受けて

●「徳島文化芸術ホール（仮称）」について

「徳島文化芸術ホール（仮称）」の整備につきましては、設計・施工一括発注の公募型プロポーザル方式により、令和3年5月から実施事業者を募集し、7月の一次審査を経て、去る9月18日、19日に行われました二次審査では、一次審査の選定設計者を含む5共同企業体から、具体的な施工計画やコスト管理計画等を含む技術提案を受け、「優先交渉権者」及び「次点交渉権者」を選定いたしました。

11月17日には、県と優先交渉権者が相互に協力し、円滑かつ確実に本事業を遂行するために必要な事項を定めた「基本協定」及び「awaアワーproject基本設計業務」の契約を締結したところであり、設計業務においては、発注者の立場から適正なコスト管理を行い、工事費の最適化を図るとともに、工事費を含む具体的な設計内容の交渉を行ってまいります。

施設の整備に合わせて、新ホールの開館に向けて「管理運営計画」の策定等にも着手していくこととしており、また、埋蔵文化財の取扱いについては、県と優先交渉権者の間で、埋蔵文化財の保存について、適切な方策を講じるために必要な協議を行っていくこととしております。

新ホールは、文化芸術の拠点のみならず、県都のにぎわいづくりの拠点施設として、大きな役割を担うものと考えており、今後も引き続き、県民の皆様の期待に応えるため、審議会委員の皆様のご御意見もいただきながら、新ホール整備に取り組んでまいりますので、御理解、御協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

●文化活動への支援について

県民主体の文化活動に対する支援として、平成30年度から「あわ文化創造支援費補助金」を交付しており、次世代の担い手を育成する活動やあわ文化の可能性を切り拓く新規性の高い活動など、幅広い文化活動に活用いただいております。一方で、新型コロナウイルスの影響により、文化活動の縮小・中止を余儀なくされているとの現場の声を受け、令和2年度より、活用いただきやすい補助制度とするため、補助対象イベントの無観客オンライン公演への変更など、「WITHコロナ時代」に対応した事業内容への変更に対応するとともに、補助対象イベントが中止・延期になった場合においても、準備に要した経費を補助対象として認めるなど、コロナ禍における文化活動を支援しております。

- ニューノーマル対応への取組みについて
令和2年度においては、「オンライン演奏指導」や、新型コロナ対策を十分に講じた環境での「ワークショップ」などの実施するとともに、各団体の取組みを支援してきたところです。

今後も、地域団体や演奏者等の意向を踏まえ、リアルとリモート両面で開催する「ニューノーマル」を実装したイベントの展開を推進することにより、地域の皆様の自主性を高めつつ、さらなる「地域活性化」に繋げて参ります。

- 情報発信について

新型コロナウイルス感染拡大による行動制限や外出自粛等を余儀なくされる中、WebやSNSなどのオンラインを活用した情報発信が重要であると考え、「阿波人形浄瑠璃」などの「あわ文化」をテーマに、無観客公演ならではの自由なカメラワークなど、工夫を凝らした映像コンテンツを制作しました。これらは、動画サイトYouTube「徳島県チャンネル」や「阿波十郎兵衛屋敷公式チャンネル」に掲載し、あわ文化の魅力を発信しております。

また、観光誘客促進のため、本県では観光デジタルパンフレット「ColorTripTokushima」の作成や、SNSを活用した観光キャンペーンとして「#とくしま再発見」SNSキャンペーンや、「#徳島あるでないで」キャンペーンを展開する等の取組を実施しており、オンラインを活用した魅力発信事業を実施しています。頂いた御意見を参考とし、インフラ面の情報発信の強化等に努めていきたいと考えています。

さらに、平成30年度に徳島観光アプリ「徳島たびプラス」を創設し、県内観光の情報発信を行うとともに、スタンプラリー機能等を搭載し、アプリを活用した観光誘客や周遊観光促進の取組を実施しています。「徳島たびプラス」の更なる認知度向上に向けて、今後も情報発信に努めて参ります。